



圖全文堂太五



右延享四丁卯十月十一日仙臺冬至春臺
一道江心渡斷虹蒼松十里鬱空濛
安禪亭畔苔成褥坐盡青螺萬點中

宝曆丙子仲夏
長崎春菴
中毛利光宗書
宝曆丙子冬浪華本田萬翁之文

明和戊子秋 雪中遊

安永五年
著・舍文鱗

草鞋舟乃ま帆片帆
船や化の身の舟や舟の舟也

天明二年正月
六花菴官東

天明三寅何終二日
月亭夢守
多に富むべし此の義方の先
簾一枚玄十用
疏石菴刃請

江戸ノ事
元和二年正月
内閣文庫蔵

享和三癸亥春耳社翁

西山形の風景

鶴子身以之也者曾良

歴史小説の文庫

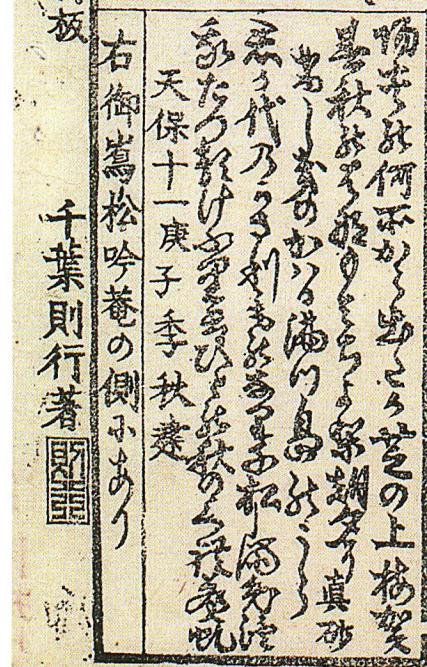
天子有山水各擅一方美衆美歸拾

天下舞山水
松嶋山主牧舟叟誌

卷之二

右御鶯吟菴の便子がア
千葉則行著

⑧4 松島句碑一覽



物を以て何不かと申せりとぞの上構製
墨秋がうねりにあらず筆端不す真砂
也あへぬむかと滿りぬふへ
未う代乃くもだまめあすの松風勢に
みたうれしきと筆端ひどく秋のうれい
天保十一庚子季秋達

松色暗き夜の水略ノ物語
天保七年八月
勝者をひき立てばいへ秋の暮江左
勝てども身の内にあらざる事すありとぞ
右 五太堂の内 ふあり

覺祖高蹟碑文
文政三庚辰春 稱法寺
松嶋雪月記文
文政十二己丑冬 秀山
秋初、西嶺爲多綠の月夜うるお何丸
泊也。苦也。牢夢の夢也。龍石
道居トテアリスノミキシテ之在
人也。かく行つてめぐらん松也。國得
木也。ぬれ葉也。松のタムれ
松もや暗き處にて木也。梅脇
天保七年八月
勝也。ひき。すすむ。秋の暮江左

寛政二庚戌歳五月日
早
宣政八丙辰五月七日
寛政十一己未三月
松吟
春蟻
松
文化十四丁丑三月
覺祖高蹟碑
文政三庚辰春
釋法寺

松嶋雪月記文政十二己丑冬秀山

海乞
昔も草雲の夢也
龍石
汝乃トアリテ一入アタシモトニテ之在
、多代の代々然れども未だ未だ

人をかくすとぞ。まことに松島國得
おもて者達は、之の夕刻より

天保七年八月
左江暮春の秋に於てひき草に立

右 五太堂の内 ふあづ
物を以て何不か まよそうきの上 桜窓

あたうわけのまゝひよ松のうねる
天保十一庚子季秋

右御嵩松吟菴の側小より

卷之三